

Go Go 農大

2025
1月号

徳島県立農林水産
総合技術支援センター
農業大学校新聞

令和7年が始まりました

1月9日、校長講話を始めとして、後期の授業が再開しました。今年度も残り3ヶ月となりましたが、2年次生にとっては卒業論文の提出、1年次生にとっても1回目の農業・6次産業体験学習があり、学習活動に一層気が引き締まる期間となります。

校長講話

1年次生の体験学習については、次号をお楽しみに！

1月24日の卒論提出締切を目前に、最後の追い込みに入る2年次生



令和6年度 中国四国ブロック 農業大学校等プロジ ェクト発表会W入賞

1月16日、17日に鳥取県で開催され、中国四国ブロック各県の代表学生が自身のプロジェクト学習について、成果とこれからの展望について発表しました。

徳島農大からは校内の中間発表会を経て選出された6次産業ビジネスコースの勇さん、小川さんの2名が発表しました。審査の結果、優秀賞3名のうち、本校の勇さん、小川さん両名が選ばれ、2月5日から東京で開催される全国農業大学校等プロジェクト発表会に出場することになりました。



発表会には1年次生6名も聴衆として参加し、各県代表の発表を聞き、これから本格的に始動する自らのプロジェクトのイメージを膨らませています。

参加報告

勇 凜佳

1月16日に、徳島農大の代表として、鳥取県でプロジェクトの発表をしました。

私は、将来の夢である桃農家としての新規就農実現のために、小規模な面積での高品質で差別化可能な果実生産、未利用資源の有効活用が必要と考え、樹上完熟桃の生産と生理落果果実の6次産業化による高付加価値化を目指し、透明袋とマルチを用いた新技術の有効性について発表しました。

とても緊張しましたが、練習を重ねた成果もあって順調に発表、質疑応答でき、優秀賞を受賞しました。これまでご指導いただいた先生方に感謝しています。全国発表会に向けて、さらに精進したいと思います。



樹上完熟桃の生産と未利用資源を用いた加工品開発による高付加価値化

小川 凜紗

鳥取県で開催された発表会では各県代表の18名が各々の研究を発表し、上位3名のうち徳島県から2名入賞しました。私は「効率的な和紅茶の製茶方法の確立と、需要拡大に向けた商品開発」と題して、冷凍茶葉の研究を行いました。冷凍を行うことで製茶時期を調整でき、茶葉を揉む揉捻作業を3分の1程度に短縮できることで、中山間地域の茶農家の収益向上への貢献が期待されます。他県の堂々とした発表に委縮してしまい、自分の番までは緊張から手が震えていましたが、いざ壇上に立つと不思議と緊張がほどけ、自信をもって発表できました。全国大会でも良い結果を得られるよう練習に励みたいと思います。



効率的な和紅茶の製茶方法の確立と需要拡大に向けた商品開発